



自分の価値を最大限高める
主人公的思考法

ある妙な質問メールを受け取りました。

こういう質問は初めて受け取ったので、戸惑ったし、最初は質問者さんの意図を理解しかねました。質問内容をそのまま転載できればいいのですが、既に消去してしまっていたようでそれは叶わないのですが、一口に言うところのこういうものでした。

「寄付していることを人にシェアするべきでしょうか？」

それとも黙っていた方がいいのでしょうか？」

...

おそらくこの質問者さんは、どこかにお金や物資などを寄付しているのかな、と思いました。そして、それを人に言いたいのかな、とも。あるいは、「自分の日々やっている活動を誰かに聞かれた時に、そういう活動もしていますということを自然に言ってもいいですか？」というニュアンスにも取ることのできる内容でした。

寄付していることを人にシェアしてもいいかどうか？
シェアするべきか、それともしないほうがいいのか？

それで今回は、この質問に答えていくと共に、タイトルにあるように、

自分の価値を高め続けられる人間と、自分の価値を安売りしかできない人間の違い

について言及していくこととなります。

さらに、最終的には、

リーダー・ヒーロー
「主人公の視点」とはどのようなものなのか、
そして、それを持つためにはどのような考え方をすべきか

という話にもつながってきます。

...

さて、あなたはどうか考えるでしょうか？

結論から言うと、僕の考えは

「寄付していることをわざわざシェアする必要はない」

です。

その理由は後から詳しく話していきますが、これは、その人の「ステージ」にもよります。あるステージにいる人にとっては、シェアした方が好事もあると考えています。しかし多くの人の場合、少なくともこの質問者さんに関して言えば、シェアしない方が好いと考えます。

基本的には僕は、

寄付というものは誰にも言わず、コッソリと、内緒でしたほうがいい

と思っています（誤解のないように先に言っておくと、例えば、チャリティの主催者などに関しては寄付を募る側であり、この場合立場が違うためそれは論外とします）。

まず、“寄付をする意味” というものを考えてみましょう。

寄付をする意味

僕は、寄付する意味は主に2つあると思っています。

1. 社会的弱者が救われる

2. 評価が変わる

当たり前ですが、寄付をすれば、寄付をされた側の“現状”社会的弱者が救われます。

生まれ育った国、環境、事情があって、そんな中で、自分自身ではどうにもコントロールできない環境・事情に置かれている人がたくさんいます。言葉は悪いかもしれませんが、彼らは、“現状”においては「社会的弱者」という立場です。

寄付を受ける側に居るということは、そういうことです。
そんな彼等が「救われる」というのがまず1つ目の意味です。

ここでの「救う」というのは、目の前の「命を救う」という意味も含まれているし、あるいは彼らの未来への可能性が拓かれる、ということも一つの「救う」という言葉の意味です。

【補足】本当の意味で「救われる」かどうか……は、寄付される側の「心持ち」のようなものが影響してくるわけで、援助を受ける事で、彼らが未来を拓いていくのか、逆に閉ざしてしまうのか、というのは相手次第です。援助を受けることで、たとえ今日を凌ぐことができたとしても、それを未来を拓く何かのキッカケにして行かない限りは、本当の意味での明るい未来は、彼らにはないということです。

何かしらの寄付や援助をする事によって現状社会的弱者の彼らが救われる。これは寄付を受ける側の心持ちや努力次第なので、寄付をする側とし

ては、それ以上の事に必要以上に首を突っ込む事もなければ、干渉する事もないと思いますが、寄付や援助をする事によって可能性が拓ける事は確かです。

・・・

そして、寄付をする意味の2つ目である「評価が変わる」ということについて。

ここで言う評価とは、

「他人」からの評価、そして、「自分自身」からの評価

です。

あなたが寄付している事実を他の誰かが知ることになれば、それはあなたに対する評価の部分にかかわってくるはずですが、大抵の場合、「ああ、この人は寄付という行為が普通にできる人間なのだな。素晴らしい」と思われるでしょうが、これは評価が上がったと言えます。評価のタイプは「上がる」以外にもあると思いますが、とにかく、自分自身が望む望まない関係なく、周囲からの評価は変わるということです。

ただしこれは、自己満足の領域であり、自己重要感や自己効力感が満たれる事に繋がっていると言えます。完全に寄付をする側の事情であり、寄付をされる側としては全く関係のない話です。

寄付する「意味」ということで話していますが、寄付する側としては、ここで得られる何かしらのポジティブな評価による「自己重要感」や「自己効力感」というものを、如何にして、自分自身の“価値”を高める材料にしていけるか、ということを考えていく。これに意味があります。

【補足】寄付や援助といった行為に対して、「偽善」という評価をする人も少なくありません。そういう世間の風潮を理解してか、あえて「私は偽善者だ」「そうです。私は偽善をしているのです」などと若干自虐気味に寄付をしている人も見えます。

一般的には、「私は人を救いたいんです！」と言って公に寄付している人よりも、こういう人の方がウケはいいようです。別にどちらでもいいと思いますが、何もしないよりは、偽善だろうが何だろうがした方がいいし、した人はしない人よりも、より多くのものを後から得られる権利があると思います。

・・・

以上2つが、寄付をする主な意味であり、実際に起こる“事実”です。この2つの意味や事実を踏まえたうえで、自分の行為に対して「私は困ってる人を救いたいから寄付をするのだ」という意味づけをするのか、あるいは「これは自己投資なのだ」という意味づけをするのか……は、その人次第です。

いずれにせよ、前述したように、「自分には存在価値があるのだ」という意味での自己重要感も上がるでしょうし、あるいは「自分自身に出来る事の可能性が広がる」という意味での自己効力感も上がるでしょう。それでいて、もっと大きな事にチャレンジすることもできるようになるかもしれません。

また、寄付やチャリティー、ボランティアなどの活動を通じて世の中の現状や真実など、これまで知らなかった現実を知ることにより、最終的には、本当に純粋な気持ちで「世の中を良くしたい」「困っている人を救いたい」と思える日が来るかもしれません。

それはその人次第ですが、このような話を前提として、ここから先を読み進めてみてください。

人間の尽きることのない欲求

人間は尽きない欲求の塊ですが、その中の一つである「承認欲求」というものに焦点を当てて話します。

これは、その名の通り「誰かに承認されたい・認められたい」と思う欲求のことで、これが満たされないと精神病になってしまう事もある大切な防衛本能的欲求の一つです。自己重要感や自己効力感というのは、承認欲求をベースとした概念になります。

チャリティー、ボランティア、寄付……このような慈善活動をしていたとしたら、「誰かに言いたい」「誰かに認めてほしい」「誰かに知ってほしい」という衝動に駆られてしまうのが人間です。これは、慈善活動に限らず、大金を稼いだとか、出世したとか、何か大きな成果を上げたというようなことは、誰かに言って、自分を認めさせたいという気持ちが多かれ少なかれ働くと思います。

僕にも当然この欲求はあるので、気持ちはよくわかります。とにかく、人間には承認欲求があるんだということをまず知ってください。

一つ質問なのですが、他人を救いたいと思うこと。これは欲求でしょうか？自分の子供や配偶者や身近な大切な人、自分の命に代えられるような人というのは生物学的に見て欲求とも言えるかもしれませんが、自分と全く関係のない世界で生きている赤の他人。そういう人たちを救いたいと思うのは欲求でしょうか？

僕は違うと思います。もちろん、こういうステージにいるマザーテレサみたいな人たちもいるとは思いますが、多くの方はまだそのステージには立てていませんよね。ある程度自分が満たされていないと、そもそも人を救う気持ちなんて絶対に生まれませんからです。漫然と「世界が平和になればいいのに」とか思いながらハローワークに通っている、みたいな人もいますが、少なくとも彼らは行動には移せないわけです。

純粹に「他人を救いたいんだ」「今ここで、今この瞬間に生命を落としてる

人たちを救いたいんだ」という気持ちがあって、そしてそれを行動に移せる人はすごく高いステージにいると思います。でも、多くの人はそのじゃない。この現実を知ってほしいんですね。

ステージの話が出てきましたが、その人のステージによって状況は変わってくると思います。シェアするべきかどうかの話を最初にしましたが、大きな影響力を持っているような人だったら、シェアしていいと思うんです。

なぜなら、多くの人にシェアすることによって、それが派生して、結果的により多くの人を救うことに繋がるかもしれないから。

でも、多くの方は、まだそこまでの影響力を持っていないわけですよ。シェアしたとしてもどうせ大したことないわけですよ。大したことないし、中途半端に周りの人達に言っても「偽善だな」と思われるのが関の山です。だから、まずは自分自身の影響力を高めたほうがいいんです。そして、そのための行動とか考え方というのを考えたほうがいいというのが僕の意見なんですね。

影響力と言ったんですけど、**影響力がない＝ステージが低い**ということですよ。人に影響を与えられるような、たくさんの人に影響を与えられるようなステージにないということです。それは言い換えると、まだまだ成長の余地があるということ。もっと言えば、**まだまだ未熟**だということです。

そんな未熟な自分が影響力を高める為に何をすればいいのか？何を考えていけばいいのか？自分自身が成長しなければいけない。自分自身が進化しなければいけない。もっと成長して成熟していかなければいけない。そして、影響力を持っていかなければいけない。答えは必ずとこういうところにつながってくるわけです。となると、やるべきことは見えてきますよね？

寄付してももちろんいいんです。それはすごくいいことだと思います。でも、それを人にべらべらしゃべるようなことではないということ。だって、まだそのステージに自分はいないんだから。自分の善行を人にシェアすることによって力を使うんじゃなくて、良い行いをしているという事実を自分の中でどう活かしていくのか？ここを真剣に考えてほしいのです。

評価の3タイプ

先ほど評価という話をしましたよね。寄付することで評価が上がると。では、評価とは何か？

自分から自分へ下す評価というものが1つ挙げられます。そして僕は最終的にこれが一番パワフルだと思っています。

2つ目には他人からの評価というもの。さらにこれは大きく分けて2つあって、ひとつは自分が直接的に価値を与えた誰かからの評価です。たとえば寄付をしたのであれば、直接寄付をされた人たちからの評価。この評価も自分へ下す評価の次にパワフルだと思っています。

そして、もう一つ、皆が見落としがちな視点があるのですが、それが外野からの評価です。ここで言う外野というのは直接的に価値を与えたわけではない人達。たとえば、僕だったら情報発信をされていて、お客さんもいるわけですが、お客さんからの直接的な評価というのはすごく強力なんです。

でも、僕がいまやっている活動を、自分の活動とは関係のない友人や知人にシェアしたときに「おーすげーなー」と言われる評価はどうでしょうか？僕はあってもなくてもどっちでもいいと思ってるんですね。というか、どちらかと言えば無い方がいいと思っています。

外野からの評価はあってもなくてもどっちでもいいけれど、どっちかというと無い方がいい。

僕はそう思っています。この話は後から詳しく解説していきますね。

外野からの評価なんてゴミ

1. 自分から自分へ下す評価
2. 直接価値を提供した人からの評価
3. 外野からの評価

評価にはこの3つのタイプがありました。

そして一番注目してほしいのは、自分から自分への評価

です。なぜなら一番パワフルだから。

多くの人にはどんな評価を欲しがるかというところ、他人からの評価を欲しがります。他人からの評価を欲しがると、中でも外野からの評価を求めていることがすごく多い。

評価＝自分が提供した価値の対価

です。

でも、多くの人には自分が価値を提供しようとした人から、「100%の感謝」という対価を貰える自信がないんですね。言っている意味は分かりますかね？ たとえば情報発信している人で、「ブログ書き始めてまだ一週間です」みたいな初心者だったら自信がないわけですよ。

「アクセスが来るのかな？」とか「ちゃんと読まれるのかな？」とか「読まれたとしてもちゃんとメッセージが響くのかな？」とか「ちゃんと役に立っているのかな？」とか。自分に自信がない状態なわけです。自分が提供しようとしている価値に100%の自信を持っていない状態なんですね。

だから価値を受け取った人たちの評価というものに100%フォーカスできないんです。

でも評価が欲しい。求められたい。だから、関係ない外野からの評価を集めようとする。「オレはこういう情報発信をしていて、色んな人に価値を発信しているんだよ」みたいなことを関係のない人に言って、「すごいね」と言ってもらおうとしたりするわけです。

会社でやっているプロジェクトの、すごい重要なポジションに自分が抜擢されたのであれば、関係のない友達とかに言って、「すごいなあ」と言ってもらおうとしたりするわけです。

そういう事をやってしまうんですね。でも、本当にフォーカスすべきは、自分が価値を提供しようとしている人たちの評価なんです。そしてもっと言うと、価値を提供している自分が自分へ下す評価なんです。

なのに多くの人は外野からの評価を求めてしまう。あなたにはこれを知っておいてほしいんですね。だって、あまりにも短期的な発想だから。あまり深く考えずに単純に自己重要感を満たしたいだけだから。これじゃダメですよ。

もちろん、「すごいな」と言ってもらえること、他人から評価されるということは、自分の自信につながります。誤解がないように言っておきますが、そこを無視してほしいわけではありません。寄付をしたとしても寄付先の人達に、直接面と向かって「ありがとう」と言ってもらえることは少ないと思います。少なくとも僕にはこれまで経験がありません。

ただ、その人達の声や言葉を直接貰うことはできませんが、想像することはできるはずですよ。自分がやったことに対して、「間違ったことは決してやっていない」「彼らのためになるんだ」という自信があるからやっているわけですよ？その自信があってやっているんだとしたら、彼らの感謝の声を直接は聞けなくても、リアルに想像すればいいだけの話なんですよ。その自信を持っていいと思うんですよ。

一方で、その声というのをリアルに想像できない人達は何をするかというと、関係のない誰かに言って外野から評価されようとするわけです。手っ取り早くインスタントな評価を貰って、自分の自己重要感を満たそうとする。そして、その評価を自信に繋げようとする。

これは評価としての価値が低いために、結局のところ自信に繋がらないんですね。そんなゴミみたいな評価を貰ったところで、自信に繋がらないんです。時間の無駄なんですよ。

そして、これは、

自分自身を安売りしている

と言い換えられる行為です。

最初に言いましたよね。今日の話は自分の価値をより高くしていける人間と、価値を安売りしかできない人間の違いというところに繋がってくると。はい、ここで一つ繋がりましたね。これが安売りなんですよ。自分の価値の安売りなんです。

自分の価値をより高くしていく。安売りしない。

価値を高めていける人というのは、この辺を感覚としてよく分かっています。だから自慢しないんですね。本当に成功している人、本物というのは余計なことを言わないんです。これは寄付の話だけじゃなくて、どんな事にも言えると思います。

もし僕が自分自身で掴み取ったライフスタイルがあって、それを友達とか家族とかに自慢してたらあなたはどう思いますか？「オレはこれだけ稼いでいて、自由なライフスタイルも送ってるんだぜ」なんて言っていたら？……尊敬できないですよ。場合によっては軽蔑すると思います。僕はそれをやってしまうことによって、自分の価値を安売りしてしまうと分かっているから、やらないというだけの話なんです。

そんな事よりも、こうやってレポートを見てくれたりだとか、音声を聞いてくれたりだとか、自分の企画とか教材に参加してくれたりする人達から貰う直接の評価の方が、何倍も何百倍も重要だと思っているし価値があると思っているし、だからこそ行動し続けることができるんです。

向上心を持って努力し続けることができる、勉強し続けることができる自分に対する評価は、僕は一番パワフルだと思っているからこそ、そこだけに集中したいんですよ。

そこに集中できるようになった瞬間に、外野の評価なんてマジでどうでも良くなるから。

本当にどうでも良くなるんです。外野の声が気になる、外野の評価をもらいたいと思っているということは、まだそのステージにいるということなんです。これはすごく自覚してほしいんですよ。真摯に受け止めてほしいと思います。

評価の独占状態を作り出す

これはイメージの話なんですけど、評価の総量があるとしますよね。100の総量があるとして、もらえる評価というのはこの100の総量しか無いわけです。そして、できればこの評価の価値を高めたいと思いますよね。分かりますか？ 総量100の評価があったとして、100個しかないんだから、この100の評価をできるだけ高めたい。一部でも安売りしたくないと思うわけです。でも多くの人はこの評価を高く売ることができないから、安売りしようとしてしまう。

限定100個の商品を自分が持っていたとして、これを誰かに売りたいとする。この商品に価値があると自信を持っているから、できれば高い価値で提供したいと思うのが普通ですよね。つまり、より多くのお金、対価を貰いたいと思っているわけです。だとしたら、より高く売りたいはず。だって価値があるものなんだから。高く評価してもらいたいはずですよ。

もちろん、その値段で高く売れる人はいいですよ。でも、多くの方は売れないわけです。とにかく安売りして叩き売ろうとする。結果的に、その100個の商品は、一方の方はその100個の商品の売り上げが、1億円になるかもしれない。でも、もう一方の方は100個の同じ商品売っているのに、売り上げは100万円かもしれない。1万円かもしれない。そういう話です。

つまり、安売りをするなということですよ。

人間が1日に活動できる時間はどんなに長くても24時間です。つまり、生み出せる価値には限りがある。ということは当然、もらえる評価の総量には限界があるんです。だって、**評価＝提供した価値の対価**だから。

もらえる数がどうせ決まっているのであれば、質を高めたいですよ。だから、安売りをしてしまう様な行動＝外野からの評価を貰おうとする行動はできるだけしない方がいいわけです。だから僕は、あってもなくてもいいけど、外野からの評価なんてどっちかというとならない方がいいと言っているんですよ。

評価というのは当事者同士で、分かち合うのがベストなんです。少なくとも寄付に関しては、こっそりやった方が何倍も自分のためになるし、自分自身の心が何倍も得をするんですね。

これは僕特有の考え方なのかもしれませんが、寄付でも何でも

人の為になるような行いに対する評価を独り占めするとい

う感覚

を持っています。

誰かに無駄にシェアすることによって、本当は独り占めできたのに、自分がもらえる取り分が少なくなってしまうという考え方をどっかに持っているんです。この感覚を持っているから、僕は無駄に自慢するようなことを今のところやっていないし、自慢したいとも今となってはもう思わなくなりました。

自分が価値を提供している人から、何かしらの良いレスポンスがあれば、僕はそれで満足です。し、その先には必ず自分自身の評価というのが待っていると分かっているから、評価を独り占めするという事の快感を覚えてしまっているから、余計な人には言いたくないんです。だから、寄付をしたことだったり、寄付をし続けていることだったりを誰にも言わない方がいいと思うんですね。

さっきステージの話をしたと思いますが、その外野の人達すら当事者に巻き込むくらいの影響力を持っているのであれば、これはどんどんシェアすればいいと思います。

僕がやっているようなビジネスだったら、外野の人って誰でしょうか？ 家族でもいいし、友達でもいいし、全然関係ない誰でもいいんですけど、その人達を自分のビジネスにもし巻き込めるんだったら、どんどん彼らにシェアしていいと思うんです。そのステージに行けるんだったら、ですよ。

でも僕はまだそのステージじゃありません。寄付に関しても、ビジネスに

関しても、何に関しても、まだそのステージに立っていないなと思っているから、もっと足元を固めたいなと思えるし、地に足をべったりつけたいなと思えるし、外野には絶対に言わないと決めているんです。

評価を自分で独り占めする感覚というのは、分かる人には分かるかもしれないし、分からない人には「何言ってんだこいつ」と思われるかもしれませんが、でも、少なくとも僕の中では、一番パワフルなエネルギー源なんですよ。

自分から自分への評価というのを最優先してほしいと思うし、これがある種の自分を好きになるという視点なんですね。これが自分を好きになるということなんです。自己愛という言葉がありますよね。そして自己愛とナルシズムとは違うということがよく言われます。ナルシズムというのは、本当に自分のことしか考えてなくて、自分しか愛せないというニュアンス。

自己愛というのは、これは僕もどっかのセミナーでちゃんと定義したんですけど、自分に関わってくれる人たちを愛せる技術。まあ、技術と言ってしまえばアレですけど、これが自己愛であり自分を好きになるという視点のあり方の一つなのかなと。

評価を自分で独り占めにする。

これは僕特有の考え方かもしれませんが、一人一人違う感覚を持っていても別にいいんですが、自分を好きになるという視点、自己愛という視点というのをどっかで持ってほしいなと思います。

そして今言ったような僕の中にある評価に対する考え方は、言わば

主人公の視点

なんですよね。

ニュアンスを伝えるのがすごい難しいんですが、自分で自分を評価することが一番パワフルだと言いました。自分の評価が最も自分の自信に

繋がるし、セルフイメージに繋がるし、次のチャンスに繋がるし、次のチャレンジに繋がるということを理解しているということです。これってもう主人公じゃないですか？

ゲームに当てはめて考えてみたら分かりやすいと思います。ドラクエなら魔王を倒すなどの大きな目的があって、それに向かってレベル上げなり何なりして、自分自身を高めていく努力をしているわけですね。

その努力ができている自分を評価するということ。

そして、行動の先に救われる人たちがもちろんいるわけです。それは村人かもしれないし、それはイベントに関わってきた人たちかもしれません。ゲーム内ではいろいろなイベントが起こるわけですが、そのイベントで救われた人達からもらえる評価は次の原動力になりますよね。これをもし次の村に行った時に「前の村を救ってきたぜ～」みたいな感じで自慢しちゃうと、外野からの評価をもらおうとしているわけだから主人公失格ですね。

だって、どうでもいいじゃないですか。次のイベントを早く見たいと思うし、そのイベントをクリアするだけの力をもっと身につけたいと思いますよね。もう以前のイベントなんてどうでもよくなっているはずですよ。

この視点を自然に持つことができるということが、僕のコンセプトの1つでもある「自分は紛れもない自分の人生の主人公なんだ」という自覚があることの証明だと思います。

主人公の視点を持った自分をさらに上からの視点で見ると評価できている自分。ゲームで言えば、操作している自分ですね。一歩引いて上から客観的に自分を俯瞰する。

ここまでの抽象度になってくると何でもこの視点で解決できるようになり、変なことに悩まされなくなるんですよ。

余計なことも言わなくなるから、余計な人間関係の摩擦とか、トラブルも起こらなくなるし、自分の今やるべきこととか、今見ているステージとか目標にフォーカスできるんですね。そこに力を思いっきり注ぐことができるから意識も分散しないんです。

外野からの評価でのみ自己重要感を高めることしかできない人間というのは、常に自分を安売りしているというと思ったほうがいいです。僕が言っている主人公の生き方というものに対して、**脇役の生き方**をしてると思ったほうがいいです。

常に外野の評価を気にしているということは脇役からの評価を欲しがっていることと同じなんですね。これはもう主人公でも何でもありませんよね。ただの脇役です。あなたは誰かの脇役になんかなりたくありませんよね？であれば、この主人公の視点というものを意識してください。

自分の価値を高める3つのステップ

では、ここまでの話を踏まえた上で、あなたがこれから取るべき行動をステップ・バイ・ステップで話していこうと思います。

ステップ1：人の為になるようなことをすること

動機はなんでも構いません。偽善でもなんでもいいです。利己的な理由でもなんでもいいから、人の為になるようなこと、人の役に立つようなこと、その結果、自分自身の自己満足度だったり自己重要感が高まるようなことをまずしてください。

それは寄付をすることもそうだと思うし、チャリティー活動とか、ボランティアとかもそうだと思います。偽善でもいいんです。それをやること自体が人の為になっているんだから。人を救っているんだから。いいですよ、それで。その結果それをやった自分をちゃんと評価できればそれでいいんです。自己満足度も上がって、自己重要感も上げることができれば、それでいいんです。

悩み解決とかもいいですよ。僕みたいな情報発信ビジネスをやるというのもいいですよ。まずはとにかく人の為になることをやるということ。そのアクションを起こしてください。

ステップ2：彼らからの感謝の声をもらうこと

その感謝の声、直接的な感謝にフォーカスしてください。自分が価値を提供した人たちからの評価の声は全部貰えばいいと思います。そしてそれを自信に変えればいいし、次のチャンスに変えればいいと思うんですね。

一方で直接に届かない声というものもありますよね？ たとえば僕なら直接的にメールでもらえるかもしれない。セミナーとかで会った時に「いつもありがとう」と言ってくれるかもしれない。でも、まだ会ってない人たちも大勢いるわけです。でも解除せずに購読し続けてくれているということ

はきっと何かしらの価値を受け取ってくれているんだと信じればいいんですよ。

ボランティアでもそう。彼らの声を勝手にリアルに想像して勝手に自信に変えればいいんですね。そして、自分自身がやっていることを決して外野に自尊心や自己満のためだけにシェアしないこと。そこでもらえるような評価はいらないと思うこと。外野には黙っておくことがベストだと心得てください。心に決めて欲しいんです。

自己重要感を高めるという作業は非常に重要なことなんです。僕らが生きていく上ですごく大事な感覚なんですね。だから、ここは避けて通れません。避けて通れませんが、自己重要感を上げるためには自分が価値を直接提供した人たちの感謝の声のみ。そして、その先にある自分自身への評価のみにする。そう心に誓ってください。

ステップ3：揺るぎない自信を手に入れること

ステップ1と2を踏まえて、揺るぎない自信、そして高いセルフイメージを手に入れてください。さらに成長、飛躍、進化をして、さらに大きな自信と高いセルフイメージを手に入れて、自分に出来ることを増やしていくこと。これがステップ3です。

ステップ4：より多くの人を外野ではなく当事者に巻き込む

影響力を持つこと

最終的に目指してほしいステージとして、より多くの人を外野ではなくて当事者として、巻き込めるようになっていく努力をすること。ここまで到達すれば、寄付していることを堂々と自分のコミュニティでシェアしていると思います。

Facebookとか見ていて、寄付したことを大々的に言っている人とかたまにいるわけですが、強い影響力を持っている人というのは割とよくやってい

と思います。それはいいと思うんです。そこに感化されて、刺激を受けて、「じゃあ俺もやろうかな」という人達が増えるからいいんです。そしてあなたも最終的にはそこに到達すればいいだけの話です。

究極の寄付

寄付という話が出たので、ついでに話しておきますが、“究極の寄付”というものがあって、これは僕も人から習ったことなんですけど、毎月の収入、あるいは毎年の収入がありますよね。その何%でもいいんですけど、1%でもいいし、5%でもいいし、多い人は10%くらいでもいいんですけど、

収入のある一定の割合を毎月、あるいは毎年寄付をすると決める

ということ。

これを決める為には自分自身がある程度満たされているという必要はもちろんあります。だからこそビジネスでもなんでもいいからチャレンジしてほしいと思うし、とっととお金の悩みというところから抜け出してほしいと思います。じゃないと、決めることなんてできないから。収入の何%かを毎月、あるいは毎年寄付するんだということを決める。そして、

できれば寄付は匿名でやる。

匿名じゃ受け付けてないところもあるかもしれませんが、できるだけ匿名でやること。寄付している事実を誰にも言わない、内緒にしておくこと。

究極の独り占めなんです。全部自分に返ってくるんです。何倍にもなって返ってきます。これは返ってきたときに分かるんですけど、ものすごい事が起きます。素晴らしい奇跡が起こります。あなたがやるかやらないかは別として、とても素敵なことが起こるのであえてこれをシェアしました。素敵なことに興味があればやってみてください。

最後に

どんなにいい事をしようと思っても、多くの人の行いというのは、独善的な範疇を超えることはできません。先ほど「どこかで自分に返ってくる」と言いましたが、これもある種の独善的な考えですよ。

独善的というか自己中心的というか、結局自己満足が上がったりとか、自己重要感が上がったりとか、自分という範疇を超えることはできないわけです。どんなに人のために何をしようと思っても。これをまず認めてください。認めるところから始めて欲しいんです。

自分にできることを、そして人の役に立てるようなことを、自分自身の価値が高まるようなことを、自分を評価できるようなことを続けていけば、ステージは上がります。そしていつしか、そのステージが上がるところまで上がると、もしかしたら今の自分に見えていないような考え方もできるようになるかもしれない。マザーテレサみたいな感覚を持てるかもしれない。

やり続けるということが大事なんです。その高いステージに行くまでは、到達するまでは、自分は未熟であるということを素直に謙虚に真摯に認めなければなりません。受け入れなければならないんです。

未熟であるということを受け入れた上で、認めた上で、それ

を踏まえた上で、邁進していくとことが大事なんです。

それが“分相応”ということです。自分を卑下するとか、相手よりも自分を下に置いて、相手をおだてるとか、それを分相応というわけでも何でもありません。無駄に「自分にはそんな大それた行動はできません」とか何とか言いながら、今の自分にできることすらやらない人を分相応と言うんじゃないんですよ。

未熟な自分を素直に謙虚に真摯に受け入れて、認めてそれを踏まえて邁進

していくこと、自分にできることを増やしていくということが分相応です。

自分にできることを精一杯やってください。

そして、外野からの評価は受け取らなくていいです。

外野からの過剰な評価というのは盲目になってしまいます。皆、深く考えてないですから。たしかに言葉では「すげーなー」と言ってくれるかもしれませんが、でも、「すげーなー」と言っている人は、本当に「すげーなー」なんて大して思ってません。話を振られたから、話を合わせるために言っているだけで、別に対して「すごいな」と思われてもないのに、「すごいな」と言われるのはかなり不健全です。

もし、そういうものをたくさんもらった人はどうなると思いますか？ 盲目してしまいますよね。カンチガイしてしまうんです。多くの場合、外野からの過剰な評価というのは、毒にしかならないんです。だから、ない方がいいと言っているんですね。

本当に真実の評価をしてくれる人達だけの評価を貰ったらいいし、もっと言えば

本当の真実の評価をするのは、自分自身です。

もしかすると、自分が直接的に価値を提供している人たちからの評価というの、盛られているかもしれないじゃないですか。悪気はないかもしれないけど「これだけの価値を与えてくれるこの人に、もっと気持ちよくなってもらいたい、もっと感謝の気持ちを伝えたい」という気持ちから自分が受け取った物以上の感謝の言葉を、投げることもあります。そこは冷静に判断してほしいなとは思いますが。

だから、一番の評価は自分の評価なんです。自分が自分に下す評価と本物の評価だから。折れないから。だから一番パワフルなんです。パワフルだけが一番難しい。それをコントロールするのは難しいんです。

でも、そういう世界があるということを知ってほしいし、今日したような話を復習してもらえたら、より理解が深まるんじゃないかなと思いますね。

そして、いずれは人の評価なんてどうでもよくなります。すると、自分が自分に下す本物の評価だけが手に入る。結果的に本物の自信・セルフイメージが身につくわけです。そうなったら自然とステージは上がっていきますよ。

なので、ぜひあなたも今回の話を理解して、本物の評価を手に入れてほしいと思います。そして、自分自身の価値を最大限の高めて、主人公として生きて行ってほしいなと思います。

ぜひ主人公としての視点を手に入れてください。あなたが思っている以上に素敵な世界が広がっていますから。

それでは、これで話は終わりたいと思います。
最後まで読んでくれてありがとうございました。

Arigato! ★ Aun